

## ピアノ初心者に対する指導法についての一考察

上田 浩平 (近畿大学九州短期大学)

榎元 圭 (福岡教育大学教員養成実施指導講師)

A Study on Teaching Methods for Piano Beginners

Kohei Ueda (Kyushu Junior College of Kindai University)

Kei Enomoto (Fukuoka University of Education Faculty Development Implementation Instructor)

### 要旨

保育士養成校に入学した学生、及び生涯学習の一環としてはじめたピアノ初心者を対象にした指導法についての考察を行った。初心者の練習曲として使用されることの多い童謡から 5 曲を選曲し、運指や指番号、指の使い方などピアノ実技において基礎となる部分の指導方法を具体的に提案するものである。

キーワード：ピアノ，保育士養成，初心者，子どものうた

### Abstract

This study examines teaching methods for students enrolled in childcare training schools and piano beginners who started learning as part of lifelong learning. Five children's songs, frequently used as practice pieces for beginners, were selected. The study specifically proposes teaching methods for fundamental aspects of piano technique, such as fingering, finger numbering, and finger usage.

Keywords : Piano, Early childhood education training, Beginner, Children's Songs

### 1. はじめに

代表執筆者は、2012 年より福岡市内の大学及び短期大学の教職課程及び保育士養成課程の学生に、「ピアノ弾き歌い」及び「歌唱」の授業を担当してきた。尚、現在は短期大学保育科にて「ピアノ」「音楽表現(指導法)」などの授業を担当している。また、共同執筆者は、2021 年より国立大学教育学部音楽科の授業に携わっている。他、2016 年より大手音楽教室にて子ども及び成人のピアノ初心者に向けた指導を行っている。

代表執筆者は、これまで「子どものうた弾き歌い」の指導法についての研究も行なってきた<sup>1)</sup>。養成校の学生たちへ「ピアノ弾き歌い」や、「歌唱」の指導

において重要になるのがピアノ演奏である。しかし、養成校に入学した学生の多くがピアノ初心者のため、「子どものうた弾き歌い」を行うには、まずピアノ奏法を習得する必要がある。そして、ピアノ奏法の習得状況により、弾き歌いの習得状況にも大きく影響する。そのため、音楽活動においてピアノ演奏は基本的な技術であり、保育士や幼稚園教諭としての質の担保には必要不可欠であると考ええる。

本研究は、学生や成人したピアノ初心者へ向けた指導法を、執筆者の経験及び実績をもとに考察及び指導法の提案を行ったものである。また、現在は生涯学習でピアノを始める大人も多い。本研究が、ピアノ初心者に対する指導法の手引きとなると幸いであると考ええる。

## 2. 基本的なピアノ奏法

### 1) 姿勢の指導

演奏にあたって、初心者の学習者は手全体に力み、および指の伸びがしばしば見受けられるため、まず手を握ってから少し力を緩めさせ、手の甲から指先まで自然なカーブを描くよう指導を促す必要がある。また、指先だけに力が入ることも多いため、指が過屈曲することのないよう留意させることが重要である。そして、手首は上がりすぎず下がりすぎず、肘も張らないよう指導する。

打鍵は指先で行うよう指導し、手全体のカーブを意識させながら、指先だけではなく指の付け根から動かすように促す。尚、座り方については、猫背にならないよう、腰から背骨を立てるように(トムソン椅子の場合は背もたれに背中が付かないように)着座させる。また、椅子の高さは、椅子に座って鍵盤に手を乗せ、肘から手首にかけておおよそ水平になる高さを筆者たちは勧めている。ピアノと椅子との距離は、同様に椅子に座って鍵盤に手を乗せた際、肘が張らないよう指導する。

### 2) 鍵盤の捉え方

現代のピアノには、鍵盤が基本的に 88 鍵あることを伝え、演奏者から見て左側が低音、右側が高音であることを説明する。また、白鍵と黒鍵を合わせて 12 音で「1 オクターブ」を成し、音名が一回りするとも伝える。

音階においては、白鍵のみで長音階を弾けるハ長調を基本に指導していくことが望ましいと考える。鍵盤の位置は、「中央ド」と呼ばれる 1 点ハから教える。1 オクターブのうち、黒鍵が 2 連続する山と、3 連続する山とがあるが、「ドは 2 連続の山の左下」であると指導する。1 点ハは、88 鍵のピアノ及びキーボードであれば、鍵盤全体の中央に位置することを助言する。

### 3) 練習上の注意

新曲の練習にあたっては、はじめに指導者が全曲を模奏することを推奨する。学習者に楽曲の全体像や雰囲気を感じ取ることができ、その後の練習の手引きとなる。その際、楽曲の特徴や学習者の理解度に応じて、指導者は楽曲をややゆっくり模奏することが必要である。

学習者が練習を始める際は、まず楽曲の旋律線である右手パートの片手練習から行うことが望ましい。音がどう動いていくのかの理解が必要なため、学習者と指導者とで右手パートを音名で歌ってみたり、指が思うように動かない場合にはさらに両手でリズムだけを取る練習を試みたりして、最初に旋律線を脳に定着させることが必要であると考えられる。

片手練習はいきなり全曲を通していくのではなく、2 小節ないし 4 小節、状況によっては 1 小節か数拍かに細分化して、反復練習を行うことが重要である。繰り返しても引っかかる箇所は、音名で歌いながら弾くように促すなど、進捗状況に応じてサポートを行いつつ進める。

右手だけで繋げて弾ける小節数が増え、一曲通して弾けるようになったところで、学習者が右手パート、指導者は左手パートを弾き、両手で演奏した場合の聴こえ方を実感してもらい、次に進める左手の練習にも意識を向けていく。

左手の練習についても、先の右手の練習と同様に、歌ったりリズムだけの練習を取り入れたりしながら進め、最終的には指導者が右手、学習者が左手を弾き、両手での完成像を実感させる。

## 3. 指導方法

学習者には、ピアノに触れる前に手を握り開く、という動作を数回繰り返させ、次に親指から順番に畳んでいき、今度は小指か

ピアノ初心者に対する指導法についての一考察

ら順に開く練習を行うことも一つの手助けとなり得る。併せて指番号についても触れ、親指が1、人差し指が2、と順に伝え、指番号は左右の手で対称であるということも学習させる。

1) 楽譜の選択

ピアノ初心者が最初に楽曲に取り組む際は、音の動き方の理解という手順を軽減できるように、一般的に知られている童謡や有名なクラシック曲、またはポピュラー曲などを用い、技術的には指くぐりやポジション移動をあまり伴わずに弾ける楽曲を選択することが望ましいと考える。本研究では、保育士養成校の学生と生涯学習者の初心者に向けた指導法につき、童謡より5曲の楽譜を選択している。

白鍵のみで弾くことが可能なハ長調の楽曲の場合、右手は1の指が1点ハから始まり、順に進んで5の指が1点ソになり、左手も同様にハが5の指、トが1の指、というポジションで書かれたものなどである。

学習の最初は、左手はハとトの2音で弾けるような楽曲が望ましいため、「チューリップ」(近藤宮子作詞、井上武士作曲)を活用する。

(譜例1)

右手が1の指から始まるため、比較的弾きやすいものと思われるが、3勝小節目で右

手の5-3の運指、つまり4を飛ばすことに注意が必要である。また、9小節でファの連打の際に指替えとポジション移動があるため留意が必要である。

次に、右手の音域が広がる「きらきら星」(武鹿悦子作詞、Traditional)を活用する。

(譜例2)

1小節目の3拍目で、ドからソまで音が飛ぶため、4の運指に意識を向ける必要がある。続いて2小節目から3小節目に入る部分は、ソからファに移る際に4の指を連続して使うため、指を横に移動する旨を伝える必要がある。

そして、右手は同じ形でポジション移動のある「かえるの合唱」(岡本敏明作曲、ドイツ民謡)を活用する。

(譜例3)

左手が重音になり、7~8小節目ではポジション移動をして副旋律を担うという点

で、左手の練習が特に必要となる。右手の3小節目のポジション移動にも留意したい。

また、左手も徐々に移動が可能になるため、「ぶんぶんぶん」(村野四郎作詞、ボヘミア民謡)を活用する。

(譜例 4)

左手な冒頭から副旋律を持ち、2小節目ではドからソの広い跳躍と同音連打があり、左右で音楽の受け渡しも重要となってくる。

上記の4曲を学習した上で、右手のポジション移動、左手の重音も含む「むすんでひらいて」(作詞者不明、ジャン=ジャック・ルソー作曲)を活用する。

(譜例 5)

左手の重音が、これまではドとソという5度、つまり5から1の指で取りやすかったが、3小節目のようにファとソで2から1の隣り合う運指の移動が重要となる。9小節目では右手はポジション移動、左手は副旋律が登場する点が特徴である。9小節目からの右手の運指は、学習者によっては1からのポジションの方が弾きやすい可能性もある。学習者に寄り添った運指の提案も重要である。

#### 4. おわりに

本研究では、初心者に対する学習方法を筆者の実践及び経験により考察したものである。右手と左手の片手ずつによる奏法から、両手奏法に繋げる手段を提示した。日常生活では左右の手で同時に別々のことを行うことが少ないため、片手ずつの練習で弾けていたフレーズが両手奏法では困難となり自信を失う学習者も少なくない。そのため、テンポを落としての練習や、指導者と一緒に片手もしくは両手で弾いて補助の役割を担いつつ、数小節ごとに区切りながら練習を進めていくことも重要である。

片手奏法及び両手奏法ともに、1曲を通しての練習でなく、弾けない箇所の部分の練習により時間を要する必要がある。しだいに、1曲を通して繋げて弾けることができる学習をさせることが望ましい。ただし、困難な箇所の重複練習は学習者の学習意欲を

## ピアノ初心者に対する指導法についての一考察

削ぐ可能性があるため、学習者の様子を見ながら進めるべきである。また、演奏の技術的な練習方法とは多少異なるが、楽譜と鍵盤を交互に視野に入れて弾く習慣を身に付けさせることも、その後の成長に繋がると考える。

学習者が練習中の曲をある程度習得してきた際には、楽譜を見ずに手元に視野が集中する傾向にある。そのため、学習者本人が、演奏箇所の把握ができず、一つの誤りから演奏を中断してしまう時がしばしば見受けられる。または、逆に楽譜に記された音名・運指に集中し、鍵盤を全く見ない場合も、誤りに気付くことが難しくなってしまいます。したがって、指導者の丁寧な指導と助言が必要である。いずれにしても、早い段階から楽譜と手元の両方を見る習慣を身に付けることで、学習の成果が上がり学習者の自信にも大きく影響する。

筆者らは、学習者による自主練習や演奏がより快適で、負担を減らすための指導法を今後も研究し学習者へ貢献したいと考える。

### 文献

- 1) 上田浩平 (2020) 「「子どものうた弾き歌い」の指導法についての一考察—『生活の歌』を中心に—」近畿大学九州短期大学研究紀要第 50 号 p. 73-82
- ・伊藤菜々子 (2022) 「保育者養成校におけるピアノ初心者への支援のあり方について」有明教育芸術短期大学紀要第 13 巻 p. 85-97
  - ・井上友里子 (2023) 「初等教育教員養成課程におけるピアノ初心者の指導法に関する一考察—指の感覚に意識を向けるトレーニング方法を用いて—」福岡教育大学紀要第 72 号第 5 分冊 p. 25-38
  - ・中島 美保 (2022) 「ピアノ初心者への読譜力のつけ方の指導法—初めてピアノを弾く学生指導の経験を基に—」近畿大学九州短期大学研究紀要第 52 号 p. 129-141

- ・平松愛子 (2017) 「通信教育部におけるピアノ初学者を対象とした学習法及び指導法—ピアノテキストの全面改編にともなって—」近畿大学九州短期大学研究紀要第 47 号 p. 49-63

### 参照楽譜

- ・堤聡 (2001. 2022) 「音符の読み方からはじめる大人のためのピアノ悠々塾 入門編 (改訂版)」株式会社ヤマハミュージックエンタテインメントホールディングス
- ・内藤雅子 (2017) 「しってる曲からはじめるたのしいピアノ・レッスン 1 5 音の音域」株式会社デプロ MP